

中国東方航空本社への訪問等について
概 要 報 告

令和元年8月12日（月）～13日（火）

富山県

1 日程

日付	日程	場所等	備考
8月12日(月) 〔1日目〕	<ul style="list-style-type: none"> ・移動日（富山→羽田→上海） ・中国東方航空との懇談 ・観光説明会 ・「とやま伝統工芸PRポップアップストア」視察 ・上海進出県内企業との懇談会 【上海泊】 	<ul style="list-style-type: none"> 中国東方航空本社 上海花園飯店 セレクトショップ「ALLUNEDNOW」 在上海日本国総領事公邸 	観光商談会
8月13日(火) 〔2日目〕	<ul style="list-style-type: none"> ・移動日（上海→富山） 		

2 参加者名簿

(1) 県関係者

	役職名	氏名
1	富山県知事	石井 隆一
2	観光・交通振興局長	猪俣 明彦
3	観光・交通振興局総合交通政策室航空政策課長	吉田 徹
4	観光・交通振興局観光振興室国際観光課長	島田 太樹
5	商工労働部経営支援課長	渡辺 正和
6	商工労働部立地通商課物流通商班主幹	熊本 奈央子

(2) 民間関係者等

1	立山黒部貫光(株)営業推進部 部長	佐々木 健治
2	黒部峡谷鉄道(株)営業課 所長	吉田 守
3	(株)ニュージャパントラベル 代表取締役社長	松田 隆
4	(株)ニュージャパントラベル 取締役	古沢 正樹
5	(株)金太郎温泉 代表取締役社長	木下 荘司
6	(株)金太郎温泉 営業課 課長	浦崎 将寿
7	ホテル森の風立山 支配人	阿部 勝喜

3 活動報告

8月12日（月）

(1) 中国東方航空本社訪問

ア 日 時：令和元年8月12日（月）15:00～16:00

イ 場 所：中国東方航空本社

ウ 富山県側：石井知事、猪俣観光・交通振興局長ほか

エ 相手方：李 養民（り ようみん）中国東方航空集团有限公司 総経理

オ 主な内容：

○石井知事から、富山ー上海便について、2005年10月23日の就航以来、14年に渡り継続・安定運航頂いていること、本年7月から9月までの期間、週2便の臨時運航とあわせて週4便で運航頂いていることのお礼を伝えるとともに、①定期便増便のためには、日中政府間の航空協定において上海や北京の空港から富山空港をはじめ日本の地方空港への発着便数の制限の緩和が必要であること、②このため、今年4月に北京で一帯一路国際協力フォーラムが開催された際、習近平国家主席に二階自由民主党幹事長を団長とする代表団の一員としてご挨拶をするとともに、中国民用航空局、中国共産党対外連絡部、中国人民対外友好協会など中国側の様々な関係機関に強く制限の緩和をお願いしてきたこと、③同時に日中航空交渉の日本側の窓口である国土交通省の大臣や航空局長に対しても働きかけを行っていることについて説明したうえで、富山ー上海便の臨時便の継続、さらには早期定期便化の実現に向け、双方で連携・協力していきたいとお伝えしました。

○李養民総経理からは、中日友好のための長年の富山県の貢献、努力と知事の熱意とリーダーシップを実感する事ができた。また、富山県の経済、社会発展、観光資源など幅広く、専門的な説明を頂き、今後の当社の市場開拓、事業展開に自信を持つことができ、感謝している。併せて、中国国内で富山県の観光をPRしていただければありがたい、との発言がありました。

○続いて、曾永超（そ えいちょう）商務委員会総経理から、夏休みの需要期に臨時的に増便を行ったが、定期便として増便するためには中日航空交渉が進展し、上海や北京の空港から日本への航空便数の制限が緩和されなければならないので、引き続き石井知事の強力な支援をお願いしたいとの発言がありました。

○次に、尹寧（いん ねい）銷售（しょうしゅう）委員会総経理兼日本支社長から、富山県と密接に連携し、利用促進に取り組むことで、富山ー上海線をより発展させ、良い路線に育てていきたい。これまで週2便で運航してきたが、今は週4便で運航しており、提供座席数が2倍となっていることから、日本発の航空券を販売する責任者としては大きなプレッシャーを感じており、上海での観光PRや富山発の利用促進策に力を貸して欲しい等の発言がありました。

○石井知事からは、李養民総経理や尹寧日本支社長からお話のあった富山県の観光PRについては、本日、上海市内において旅行会社向けの観光説明会等を開催して富山県をP

Rするとともに、静安寺のセレクトショップで富山の伝統工芸品等を紹介するポップアップストア展示を行っていること、また、在上海日本国総領事公邸において富山県から上海に進出している県内企業等との懇談会を開催することを紹介し、こうした活動のいずれも富山ー上海便の利用促進に結びつけるための活動であるとの説明を行った。今後とも、中国東方航空と協力してより多くの皆様にご利用いただけるよう、しっかりと連携して利用促進に取り組むたい。これまでも様々な取り組みを行ってきたが、日中間の交渉がまとまるよう、富山県としても努力するので、とりわけ中国国内において大きな影響力のある中国東方航空として中国の関係方面への働きかけをお願いしたいとお話しました。

○李養民総経理からは、富山県のこれまでの上海の空港と日本の地方空港とを結ぶ路線の拡大を実現するための精力的な活動に対し謝意を示されるとともに、中国東方航空としても中国国内において日中間の航空路線の制限緩和に尽力すること、こうした制限緩和が認められれば富山ー上海の定期便増便について速やかに対応したいとの発言がありました。また、石井知事がこれまでも富山ー上海便の維持・安定化に努力していただいたことに感謝の意が伝えられ、今後も双方協力しながら、よりよい成果を得られるよう努めていく旨の発言がありました。



本社正面到着時（石井知事と尹寧日本支社長）



懇談の様子（石井知事と李養民総経理）



記念品の交換



中国東方航空幹部との記念撮影

8月12日(月)

(2) 観光説明会

ア 日 時：令和元年8月12日(月) 16:30~18:00

イ 場 所：上海花園飯店2階ジャスミンルーム

ウ 富山県側：石井知事、立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)ほか県内観光事業者4社

エ 相手方：在上海日本国総領事館 磯俣総領事(大使)

日本政府観光局(JNTO)上海事務所 原口所長

上海市文化・旅游局 程(てい) 副局長

中国東方航空銷售(しょうしゅう)委員会 瀋(しん) 副総経理

旅行会社15社、クルーズ船船会社1社、メディア3社

オ 主な内容：

○まず、日本政府観光局(JNTO)上海事務所の原口所長から次のとおりご挨拶をいただきました。

・中国から日本を訪れる訪日観光客は増加しており、中国は4年連続で世界ナンバーワンの日本への送り出し国となった。

・本年も1~6月までの日本を訪問した中国人は約453万人と順調に推移している。

・今年度のJNTOの中国への訪日プロモーションの柱は、大きく3つ。1つめは、富山県を含めた昇龍道プロモーション。2017年4月から昇龍道を重要ディスティネーションと定め、3年間のプロモーションを展開している。2つめは、「深度遊」(体験型観光)のプロモーション。個人の趣味・嗜好にあった「深度遊」を楽しむ旅行者が増えてきた。日本の地方にはその土地でしか体験できない郷土料理や文化体験が無数にある。3つめはスノーレジャーのプロモーション。2022年の北京冬季オリンピックを控え、今後その機運が高まっていくことが予想される。

・来月からラグビーワールドカップ2019が、また来年は東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、日本が世界から注目される年が続く。この機会を最大限に活かし、日本がディスティネーションとして飛躍する年としたい。

・最後に、本日、観光説明会に参加いただいた皆様に富山県の魅力をもっと知っていただき、さらなる旅行商品造成のきっかけとなることを期待している。

○次に、現地のプレゼンターから観光説明を行い、①立山黒部アルペンルート、黒部峡谷、五箇山合掌造り集落、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾など、四季を通じた魅力的な観光資源、②ミシュランでも高い評価を受けている富山ならではの食の魅力、③多彩な温泉地や祭り、観光列車といった体験コンテンツなど、富山県の魅力について説明し、最後に、富山-上海便や北陸新幹線を利用したモデルコースを紹介しました。

○次に、石井知事、在上海日本国総領事館の磯俣総領事(大使)、上海市文化・旅游局の程(てい)副局長が到着し、まず、石井知事から次のとおり挨拶を行いました。

・富山-上海便は、2005年10月の就航以来、本県と上海市との様々な分野での交流を支える重要な路線として、これまでに24万人もの方々に利用されてきた。

・2018年の中国からの訪日外客数は838万人と大幅増になったが、富山県での中国人宿泊者数も対前年比約35%増の約3万1千人余となった。

・これに伴い、富山ー上海便の搭乗率は過去最高の78.1%となり、ニーズはあるが座席数が不足がちという状況となった。そこで、本年4月に北京で開催された「一带一路国際協力サミットフォーラム」で富山県知事として意見発表するようお招きいただいた機会に、習近平主席の提唱される一带一路の理念を推進するためにも、上海や北京の空港と富山空港をはじめ日本の地方空港との発着便数の制限の緩和が必要であると提案した。幸い、先月11日より、富山ー上海便について、週2便の臨時運航が実現し、定期便とあわせ週4便の運航となった。今後、中国東方航空をはじめ、本県参加の皆様のお力添えもいただきながら、早期の定期便化の実現に取り組んでいきたい。

・富山県には、世界的な山岳景観を誇る立山黒部アルペンルートや黒部峡谷といった美しく雄大な自然、世界遺産の五箇山合掌造り集落をはじめとする多彩な歴史・文化、新鮮な海の幸・山の幸、温泉など、魅力的な観光資源が豊富にある。特に、富山湾は、2014年にユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認され、加盟5周年となる今年の10月には、湾クラブの世界総会の本県開催が決定している。

・旅行会社の皆様には、今回の観光説明会を機に、富山県への理解をより一層深めていただき、富山ー上海便を利用したツアーを数多く造成してもらい、さらに多くのお客様の送客をお願いしたい。

最後に、知事から、「まだ、富山に行ったことのない旅行会社の方がおられますか。」と訊ねたところ、数名、遠慮がちに挙手がありましたので、富山県の送客に尽力していただきたいので、「先着順で3名、富山への視察に招待します。」と申し上げたところ、大いに盛り上がりました。

○続いて、在上海日本国総領事館の磯俣総領事（大使）から次のとおり乾杯のご挨拶をいただき、交流会が始まりました。

・まずは石井知事をはじめ、富山県の観光事業者の上海訪問を心より歓迎申し上げる。上海の関係者を交えて、商談会・観光説明会が開催され、また、富山の伝統工芸品をPRする展示会が開催されていることについて、お祝いを申し上げる。

・中国からの訪日外客数は2018年838万人と2014年241万人と比較し、4年で3.5倍に増えた。また、その特徴として、団体旅行から個人旅行に大きくシフトし、日本を訪問するリピーターが増えている。今年1～6月までの団体観光ビザの発給件数の伸びは昨年同期比プラス1%だが、個人観光ビザの発給件数はプラス14%となっている。

・中国人観光客はいわゆるゴールデンルートは訪問したので、日本のいろいろな地方都市へ行き、その土地でしか味わうことのできない体験を楽しむ人が増えている。今回、石井知事をはじめ、富山県の観光事業者が商談会・観光説明会を開催することは大変時宜を得たものであり、上海の旅行会社の皆様には、富山県の魅力を知ってもらえればと思う。

・今年は、日中青少年交流推進年であり、来年は、習近平国家主席が日本へ国賓として訪問することが予定されている。夏には東京オリンピック・パラリンピックがあり、富山県は東京から新幹線で、2時間で行ける距離にある。そして、その次の年は、日中国交正常化 50 周年と非常に重要な年であり、そこに向かって、中国から日本への旅行者はさらに増えると考えている。

・これを旅客運送の観点から支える航空会社にも加わっていただき、日中間の交流の促進、富山県と上海の交流を関係者の皆様に支えてもらいたい。先ほど、知事の話にもあったように、中国東方航空では臨時便を実現しているが、これを定期便化し、交流を下支えしてほしい。

○最後に、中国東方航空銷售（しょうしゅう）委員会 潘（しん）副総経理より、上海から富山便は 2005 年 10 月 23 日に就航して以来、14 年目を迎え、富山県や各界の多大な配慮により富山県での基盤の強化が図られたことに感謝していること、観光説明会で富山県の観光の魅力を理解し、今すぐにでも富山に行きたいと感じたこと、今後も富山県民の皆さんが東方航空を選び、富山と上海のビジネスや観光の交流が進むことを期待し、引き続き富山県の関係者と協力して発展していきたい旨の挨拶がなされ、閉会となりました。

（3）観光商談会

○なお、観光説明会に先立って、同会場において県内の 6 観光事業者と現地旅行会社（16 社）との商談会が開催されました。参加した旅行会社は、地方への誘客を図るための観光資源を探しているとのことで、富山県の主要観光地の料金や富山空港からのアクセス方法・所要時間などについての質問がありました。また、多様な旅行商品の造成に向けて、富山ー上海便の週 4 便の定期運航化に多くの参加事業者から期待が寄せられたほか、スキーツアーの造成に向けた冬季運航の可能性の質問も寄せられるなど、熱のこもった商談会となりました。

○このほか、「上海では訪日リピーターが急速に増加しており、日本の地方への関心が高くなっている。富山県は自然、食、文化など、観光地としては素晴らしい素材があるが、中国の旅行者に富山県が選ばれるには、観光地の知名度向上が必要であり、積極的な PR をして欲しい。」といった声が聞かれました。



観光説明会



石井知事挨拶



磯俣総領事（大使）挨拶



交流会



記念品贈呈



商談会

(4) 「とやま伝統工芸PRポップアップストア in 上海」視察

ア 日 時：令和元年8月12日（月）18:34～18:55

イ 場 所：カフェ兼セレクトショップ「ALLUNEEEDNOW」（オール・ユーン・ニード・ナウ）
内展示スペース（住所：中国上海市静安区南京西路1728号）

ウ 日本側：石井知事、猪俣観光・交通振興局長、県随員 等

エ 相手側：樊誠俊（ふあん ちんしゅん） 董事長（社長）、
王一如（わん いーるー） 総経理、邱慧敏（アキ） バイヤー

オ 主な内容：

- 本県はこれまでニューヨーク、ミラノ、パリなどで伝統工芸PR展示会等を開催し高い評価をいただけてきました。中国では、今年4月に首都・北京で開催した「とやま伝統工芸PR展示会・同交流会」が大変好評だったことから、今回、上海にて展示会を開催しました。
- 今般、8月10日（土）から明日14日（水）までの5日間、上海市内の中心にあり特に若者が集まる繁華街・静安寺（せいあんじ）エリアの人気のカフェ兼セレクトショップ「ALLUNEEEDNOW」（オール・ユーン・ニード・ナウ）において、店内の既存の販売コーナーを“ポップアップストア”に拡充し、高岡銅器や高岡漆器、越中和紙など富山県を代表する7産地21事業者の優れた伝統工芸品や「富山プロダクツ」等、約200点を展示しました。店内は本県の伝統工芸品をイメージした装飾で彩り、美しい風景をあしらったポスターや映像を掲示・放映し、また本県の伝統工芸品の説明や観光情報、県総合デザインセンターによる本県の官民一体となったデザイン振興の取組み、上海便の増便をパンフレットやチラシを通じ紹介しました。
- SNSで知ったという男性や欧米人、街を通りかかった若い女性グループが訪れるなど関心を持つ方が多く、初日の8月10日（土）が台風の影響で外出禁止令が出たため訪問者がほとんどなかったにもかかわらず、明日（14日）の最終日までの来場者は約300名に達する見込みです。その大半が若い女性でしたが、若者や親子連れ、若手起業家、職場の仲間など幅広い層にも訪問していただき、皆、説明に耳を傾けながら作品を手にとって眺めたり、SNSにアップする姿が印象的だったとのこと。
- 10日（土）には、平成29年に本県で開催した「国際北陸工芸サミット」で選考委員を務めていただき、今年4月の北京での交流会でスピーチを賜った、中国を代表する伝統工芸士・王超鷹（わん ちゃおいん）氏が会場を訪れ、「北京を上回る大変素晴らしい展示会だ。知事によるしくお伝えいただきたい」とのうれしいメッセージをいただきました。
- 12日（月）夕方に、石井知事が会場視察に訪れた際には、樊（ふあん） 董事長（社長）、王（わん） 総経理のご夫妻に店内をご案内いただき、懇談しました。
樊社長からは、①「ALLUNEEEDNOW」は、オープンから6年が経ち、上海で最も人気のあるセレクトショップとなった。日本とイタリアからの商品が中心だが、中でも富山県の伝統工芸品の売上はトップを争うほど。②この店の客はほとんどが若い女性だが、和紙と高岡銅器の人気が高い。川原隆邦氏の大型の新作「円龍」は人気があり、もっと見たいという顧客が少なくないので、同氏の作品を他の作品も含めて期間終了後も1か月ほど継続的に展示することにした。今後、直接連絡を取り、同氏の商品を

取り扱っていきたい。

- 石井知事から「富山県には優れた多彩な伝統工芸品があるので、ぜひ、富山県をあらためて訪問して、各分野の伝統工芸品の魅力を体感してほしい」とお話ししたところ、樊社長から「富山県をぜひ再訪し、今後、富山県の伝統工芸品の扱いを増やしていきたいなど大変心強いお話をいただきました。
- 今回の展示会では、優れた職人技でつくられ技術やデザイン性のある本県の伝統工芸品への評価・関心が高く、来場者へのアンケートでは、「全てのデザインが本当に美しく品がある。とても気に入った」、「富山県という場所には馴染みがなかったが、伝統工芸の歴史、文化が気に入ったので、今度、訪れたい」、「次回はいつやるのか。定期的開催してほしい」、「どこで買えるのか、すぐ買いたい」などたくさんのご意見をいただく一方で、値段を気にしたり、「もっと実用的なものを見たい」との要望も若い女性の方々からありました。早速、インターネットの販売サイトや展示品の事業者のホームページをご紹介した例も多くありました。北京に続き上海でも高い評価をいただけたことから、中国がやはり本県の伝統工芸品の販路として大いに可能性のある国であると実感しました。
- なお、本県の伝統工芸品については、海外への販路拡大が今後の一つの方向として非常に重要であり、県としても積極的に取組みを進めているところです。海外では、「こんな素敵な伝統工芸品があるところにぜひ行ってみたい」という声をよくお聞きすることから、伝統工芸品等は本県が大切にすべき大変魅力的な観光資源でもあることをあらためて認識しました。また「富山県に来れば制作の体験もできる」ということで、伝統工芸品の体験を柱とした産業観光の充実にもさらに力を入れてまいります。



2階入口 川原隆邦氏「円龍」



2階展示の様子（1）



2階展示の様子（2）



樊董事長（社長）、王總經理に店内をご案内
いただきながら、私から本県の伝統工芸品
の魅力についてご紹介し、懇談
（以下2枚も同様）



(5) 上海進出県内企業との懇談会

ア 日 時：令和元年8月12日(月) 19:10~21:10

イ 場 所：在上海日本国総領事公邸

ウ 県 側：石井知事、猪俣観光・交通振興局長、吉田航空政策課長ほか県随員

エ 相手方：磯俣上海総領事(大使)、船橋JETRO上海事務所次長ほか関係者3名、
(株)トヨックス、(株)不二越、YKK(株)、三協立山(株)、北陸電気工業(株)、
(株)日本抵抗器製作所、三光合成(株)、(株)スギノマシン、(株)リッチェル、
上海米源集団(米原商事(株))、(株)北陸銀行

オ 内 容：

- 冒頭、石井知事より、①磯俣大使のご厚意により総領事公邸において懇談会を開催でき、上海進出企業から多くの皆さんがご参加いただいたことに謝意を述べるとともに、②本県から中国へはものづくり企業を中心に110社298事業所が進出され、うち上海には45社61事業所が展開されており、事業活動のご発展を祈念していること、③今年4月に「一帯一路国際協力フォーラム」出席のため北京を訪れた際に、習近平国家主席にご挨拶する機会をいただくとともに、中国民用航空局や中国共産党対外連絡部、中国人民対外友好協会等に働きかけ、幸い7月から9月末まで富山ー上海便は従来の定期の週2便に加え、臨時2便の増便が実現したこと、④先ほど中国東方航空の李総経理に臨時2便の増便のお礼と早期定期便化についてお願いしてきたこと、⑤中国ビジネスの最前線で努力されている企業の皆様から現在の中国の経済環境の下での企業活動の課題や展望について忌憚のない意見を聞かせていただきたい旨、ご挨拶を行いました。
- 磯俣大使からは、総領事館の役割として、邦人保護や日中間の人的交流とともに、進出企業の支援が重要であると考えており、企業が置かれている現状や課題などをお聞きし、JETROや商工クラブと連携して中国当局へ要望するなど今後の支援につなげたいと挨拶がありました。
- 参加企業を代表して、株式会社トヨックス(東洋克斯貿易(上海)有限公司)の高橋董事長からは、①石井知事や磯俣大使との懇談の機会が得られたことへのお礼と、②富山ー上海便が臨時2便の増が実現し、上海市と富山県との往来が非常に便利になり感謝していること、③各企業が抱える課題や今後の展望などについて、率直に意見交換する場にしたいと挨拶がありました。
- 次に、石井知事より、①日中両政府間の航空交渉が進展し、臨時2便が早期に定期便化し、週4便となるよう努力したいこと、そのためにも上海でビジネス活動をされている企業の皆さんに、富山ー上海便を積極的にご利用いただきたいこと、②富山県の産業の骨格をなすものづくり産業の新たな発展、飛躍のため、新たな未来戦略を策定し、薬事総合研究開発センターや産業技術研究開発センター、総合デザインセンターなどの大幅拡充を図るとともに、くすりやアルミのコンソーシアムといった産学官連携の研究開発の取組みに力を入れていること、③中国をはじめ国内外から多くの企業が集まる「ものづくり総合見本市」を開催し、県内企業のビジネス機会の創出や優れた製品・技術の情報発信に取り組むこと、④日本全体では本格的な人口減少が始まっているなか、富山県

ではUターン率のさらなる向上、若い世代の富山県への移住が増えていることなど県の経済施策や人材確保・育成の取組みの紹介を行いました。

- 企業との意見交換の中では、①中国国内の自動車販売不振や米中貿易摩擦により、自動車向け電子部品の需要減や設備投資の鈍化、輸出量の減少等があった、②中国政府の環境規制により、取引先が台湾、ベトナム、フィリピンなどへ国外移転したため、売上に影響があった、③人件費の高騰がコストを圧迫しており、人材確保も難しくなっている、など県内進出企業を取り巻く厳しい状況の声が聞かれました。
- 一方で、①中国は市場として依然大きいため、新たな技術や製品の開発について、中国国内で開発・生産していきたい、②中国政府の環境規制により、電気自動車の部品や環境にやさしいエアコンへの部品搭載率が増加した、③営業員の人材育成に力を入れていきたいなど明るい話や④富山ー上海便の臨時便による運航増により、現地社員や顧客の招待に利便性が高まったと感謝の声も伺いました。
- 船橋JETRO上海事務所次長からは、総領事館・商工クラブと連携して、企業の支援に努めるとともに、富山県ものづくり総合見本市について、中国からのバイヤー招聘に協力したいと、コメントがありました。
- 磯俣大使からは、中国とは経済的交流が欠かせず、互恵的な関係を築くとともに、経済と表裏一体の関係にある文化的・人的な交流も重要である。中長期的に青少年交流に力を入れていきたいと発言がありました。
- 石井知事からは、米中貿易摩擦などにより苦心しながら日々努力されている進出企業の皆さんのお話をお伺いし、ありがたく思う。今後、富山県の産業育成の方向などについて富山県の本社の皆さんともお話しする際の参考とさせていただくとともに、引き続き、富山県と上海（中国）とがウィンウィンの関係で発展していけるよう努めてまいりたいとお話をしました。
- 最後に、株式会社不二越（不二越(中国)有限公司）の代表取締役から、知事や大使と意見交換ができたことへのお礼と現地企業の皆さんと一致団結して、中国及び富山県の発展に貢献したいと、締めくくりの挨拶がありました。

